

豊能医療圏
がん医療ネットワーク協議会
活動報告〔令和3年（2021年）3月12日〕

市立豊中病院

大阪大学医学部附属病院

組織図



【参加団体】

- ◆ 医師会
- ◆ 保健所
- ◆ 市町がん検診担当課
- ◆ ホスピス・在宅診療所
- ◆ 大阪府訪問看護ステーション協会
- ◆ がん診療（連携）拠点病院

がん登録部会

【部会活動のメインテーマ】
網羅的で精度の高いがん登録の実施

【令和2年度（2020年度）活動報告】

1. 大腸がんの院内がん登録データを用いた現状分析

○施設別登録件数：

豊能医療圏がん登録全件数の13%が大腸がん症例

○年齢階級別患者数：70歳代が一番多い。

○地域別・発見経緯割合：地域に関係なく症状受診が多い。

○年齢階級別・発見経緯割合：

症状受診が多いが、40歳代、50歳代のがん検診の割合が少し多い。

がん登録部会

【令和2年度（2020年度）活動報告】

2. 院内がん登録から見る緊急事態宣言中の患者動向

大阪大学医学部附属病院、市立豊中病院、済生会吹田病院の2018年－2020年症例（4月～6月）（速報値）

○院内がん登録者数の減少

○発見経緯別割合　がん検診による割合が減少

○部位別割合　大腸がんの部位全体に占める割合が増加

3. 院内がん登録の精度管理

がん登録の実務について意見交換を行った。

緩和ケア部会

【部会活動のメインテーマ】
緩和ケアの普及

【令和2年度（2020年度）活動報告】

1. 緩和ケアにかかる地域医療機関との連携強化

- ▶ 各施設で地域連携情報シート（リレーシート）の運用に向けた調整を行った。

地域連携情報シート（リレーシート）の運用
運用状況

令和3年1月末現在・・・10施設

課 題

- 未記入項目が多く、参考とならない場合がある
- 受療する医療機関での活用方法、緩和ケアへのメリットなどのフィードバックが必要

 リレーシートの見直しに繋げる

緩和ケア部会

2. 緩和ケアの普及啓発

実績

調査回答14施設中2施設が参加実績あり
「緩和ケア勉強会等への参加」

緩和ケアへの今後の取り組み

- eラーニングによる研修
- Zoom等の活用による地域の情報共有や交流
- YouTubeやSNSを活用した広報活動など

緩和ケア部会

新型コロナウイルス感染症拡大の状況下における緩和ケア

【影響】

- 面会制限、禁止により患者とその家族を含めた説明や意志決定支援がしにくい
- 面会制限を避けるため、看取りケアのための入院やレスパイト入院ができず、入院が妥当なケースでも在宅療養を継続する場合がある
- 家族への直接ケアの機会が減少している
- ホスピスへの転院後に家族でも面会制限があり、療養の場として進めにくくなっている

緩和ケア部会

新型コロナウイルス感染症拡大の状況下における緩和ケア

【取り組み】

- 電話やオンラインによる面会の実施
→ 実体験として側にいる感覚が得られにくく、満足度が高いとはいえない
- 患者の状況に応じ、面会者の検温や体調観察をしたうえで面会を許可
- 感染予防のためチームでの回診を行わず、後で情報共有を行う

緩和ケア部会

新型コロナウイルス感染症拡大の状況下における緩和ケア

面会制限での緩和が精神面での緩和ケアに直結

終末期に家族と会ったり、過ごしたりすることは患者自身にとっては緩和ケアに繋がる

新型コロナウイルス患者にも緩和ケアが必要な場合がある

緩和ケアに繋がる方策、介入の仕方の情報交換などの取り組みが必要

がん検診情報部会

【部会活動のメインテーマ】
がんに関する情報の普及、
及びがん検診の受診率向上

【令和2年度（2020年度活動報告）】

1. がん教育の推進

- 各市町がん検診担当課から、各市町教育委員会への働きかけ

市町名	取り組み
豊中市	・年度当初、大阪府の制度を活用した出前授業に複数校からの申し込みがあったが、新型コロナウイルスの影響により医療機関が対応できないため、府より各医療機関への日程調整等を見合わせるようにとの連絡があった。実施可能な状況になれば再開することになっていたが、今年度は見通しが立たず実施を見送ることとなった。
箕面市	・各小中学校からの依頼に応じてがん出前講座を行うこととしていたが、今年度は新型コロナウイルスの影響もあり、出前講座の依頼がなく実施していない。
池田市	・新型コロナウイルス感染症の影響もあり、教育委員会との調整が進まず、実施検討は見送り。
吹田市	・吹田市教育委員会では、平成30年度より、教育センターが所管の健康・安全研究グループを発足させ、先進的にがん教育を行っている事例を参考にしながら、授業に活用できる教材を開発した。今年度は各小中学校には完成した教材を活用できるよう紹介した。
豊能町	・本町国保診療所医師より、町立中学校長、養護教諭（1か所）にHPVワクチン接種の必要性について勧奨を行う。
能勢町	・がん教育への取り組みについては、出前講座や研修会などは実施していないが、中学2年生の保健体育でがんについて学習している。 ○教科書を使用してがんについての学習 ○喫煙防止教室において医師によるがんやたばこの害についての学習

がん検診情報部会

2. 令和2年2月実施のがん医療公開講座の評価を行い、次回実施の方向性等について検討する。

●テーマ：よく分かる大腸がんのこと～家族を守る早期発見のすすめ～

●受講者数：345名（事前申込み 337名、当日受付 8人）

○特別講演「がんと共に生きてみて」 講師：鳥越俊太郎

○パネルディスカッション

来場者へのアンケートによる評価では8割が「分かりやすい」「満足」と回答

コロナ禍で、軒並み開催中止や実施形態をオンラインイベントに転換
しかし、オンラインイベントで、開催目的を達成できるか？

オフラインイベントは、どのような感染対策をどこまで必要か？

「業種別ガイドライン」改定（文科省、国交省、経産省）

→次年度開催の延期も含め、慎重に検討する予定

がん地域連携部会

【部会活動のメインテーマ】
地域連携によるがん医療の充実

【令和2年度（2020年度）活動報告】

- がん相談支援センター業務における各拠点病院の課題や問題点について情報医共有を行い連携や改善を図る。

がん地域連携部会

〔令和2年度(2020年度)の具体的な取組み〕

- 府満足度調査票によるアンケートへの実施協力及び調査結果の分析・情報共有

【大阪府のアンケート調査】

アンケート調査実施の状況

- ・目的:利用者ニーズに十分に対応し満足できる提供が出来ているか評価する
- ・実施期間:令和2年8月から11月
- ・実施場所:大阪府下のがん診療(連携)拠点病院
- ・対象者:がん相談支援センターの利用者
- ・約2000件を配布(477件回収 回収率 約24%)
- ・豊能医療圏の状況(8施設)
 - 配布数(予定) 260件
 - 回収数 65件 回収率(25%)

がん地域連携部会

分析（活動）結果

- 相談者の年齢階層は、50代から70代が多く、この傾向は、府全体と比較して大きな違いは見られないが、
- 70代の相談者の割合が若干高い。
- 40代の相談者の割合が若干低い。
- 他の医療圏に比べても70歳代の高齢者の相談の割合が若干高く、40歳代の割合が低い。

- 豊能医療圏では、その他（他府県）にお住まいの相談者の割合が他の医療圏に比べ高い。（他府県からの相談者も一部ある。）

- がんの部位は、豊能医療圏では肺、大腸、胃、すい臓の順で割合が高い。府全体と比較してもほぼ同様の順位を示しており、各部位の割合も大きな違いはない。

がん地域連携部会

分析（活動）結果

- ・ 府全体と比較すると大きな差はみられないが、他の医療圏と比較すると自施設で治療を受けている相談者の割合が若干高い。
- ・ 自施設の患者の割合が高いことは、他の施設で治療中の相談者の割合が少ないともいえる。
- ・ 他の施設で治療中の患者など、拠点病院以外の医療機関で治療中の患者に対して、相談支援センターの役割などあらためて周知が必要ではないか。

豊能医療圏における課題と対応策【まとめ】

- ・ 今回の調査結果では、豊能医療圏と府全体との比較を中心に行ったが、相談者の年齢階層やがんの種類など大きな差異は見られず、府全体の傾向と同様の傾向を示している。このことから、今後、調査結果を踏まえた府の対応策を基本として取り組むことが必要である。
- ・ また、自施設で治療中の相談者が多くを占めている状況から、相談の需要に対し一定程度の対応（供給）がなされている。一方で、豊能医療圏内の拠点病院以外の、他の施設で治療中の患者に対し十分な周知がはかれているか、調査の実施方法を踏まえた上での検証が必要である。

がん研究部会

(1)小児がん対策

● 小児がん診療に関わる医療機関ネットワークの構築

阪大病院は、2019年に大阪府小児がん拠点病院の認定を受け大阪府内のがん診療連携拠点病院等と連携し、小児がん患者の診療に取り組んでいる。

特に骨軟部腫瘍、脳腫瘍、網膜芽細胞腫および肝移植の必要な肝芽腫については大阪府内から患者が集積しており、小児科、小児外科、眼科、整形外科、脳神経外科が連携して治療にあたっている。

また、近畿若手小児血液クラブを組織し、若手医師の教育も行なっている。

AYA世代のがんに対しても力をいれており妊孕性についても産婦人科、泌尿器科と連携している。

長期フォローアップ外来を強化しており、がんになっても一生を通じて質の高い生活を送ることができるように医師、看護師、臨床心理士、薬剤師、チャイルドライフスペシャリストなどの多職種による支援を行っている。

がん研究部会

(2)骨髄移植および臍帯血移植の推進

● 骨髄移植および臍帯血移植の現状

同種造血幹細胞移植の件数は年間35件（2020年）である。移植の幹細胞ソースとしては血縁、骨髄バンク、臍帯血のすべてに対応しており、骨髄バンク及び臍帯血移植が3/4を占めている。

(3)がん研究の推進

● 多施設臨床研究の推進（特定非営利活動法人SCCRE（エスキュール））

がん臨床研究を実施する7つの研究会（消化器がん、乳がん、肺がん、泌尿器系がん、骨髄腫等）を支援している。

● 臨床研究中核病院

平成27年8月に臨床研究中核病院の認定を受けた。未来医療開発部の支援の下、がん薬物療法の治験治療等、質の高い臨床研究を推進している。

がん研究部会

● がんゲノム医療中核拠点病院

- ・「がんゲノム医療を総括する部門の設置」として、がんゲノム医療センターを設置し、平成30年2月にがんゲノム医療中核拠点病院の指定を受け、令和2年3月に引き続き指定を受けた。
- ・平成30年10月より先進医療B「マルチプレックス遺伝子パネル検査」を開始し、令和元年9月末にて受付を終了した。（200例予定、199例登録）
- ・令和元年9月中旬より保険適用となった2種類のがん遺伝子パネル検査の受付を開始した。（令和2年12月末時点：289件）
- ・令和元年10月から、国立がん研究センター中央病院が調整事務局となり実施する「遺伝子パネル検査による遺伝子プロファイリングに基づく複数の分子標的薬治療に関する患者申出療養（受け皿試験）」が特定臨床研究として開始された。当院も協力医療機関として承認され、受付を開始している。
- ・令和元年9月にがんゲノム医療拠点病院が、全国に34施設指定された。当院は令和2年4月時点で、がんゲノム医療拠点病院（全国3病院、うち大阪府下2病院）、及びがんゲノム医療連携病院（全国7病院、うち大阪府下4病院）と協力して、がんゲノム医療の社会実装を推進している。
（協力している大阪府下6病院：【拠点】大阪国際がんセンター、近畿大学病院
【連携】大阪府立大学医学部附属病院、大阪急性期・総合医療センター、大阪労災病院、堺市立総合医療センター）

がん研究部会

(4)先進医療の推進

● 以下の先進医療を現在実施中である (R3.1.1)

1. パクリタキセル静脈内投与及びカルボプラチン腹腔内投与の併用療法 (先進医療 B)
2. 周術期カルペリチド静脈内投与による再発抑制療法 (先進医療 B)
3. 放射線照射前に大量メトトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線 治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法 (先進医療 B)
4. 術前のS-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びトラスツズマブ静脈内投与の併用療法 (先進医療 B)
5. テモゾロミド用量強化療法 初発時の初期治療後に再発又は増悪した膠芽腫 (先進医療 B)
6. マルチプレックス遺伝子パネル検査 難治性固形がん (先進医療 B) ※受付終了
7. 術後のアスピリン経口投与療法 (先進医療 B)

がん研究部会

(5) 人材育成

- がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
(大学院)

76名が在学中

(薬物療法、放射線治療、外科治療、医学物理、がん病理、細胞診、がん看護等、小児がんゲノム)